

小学校特別支援学級（知的学級、自閉・情緒学級）国語科学習指導案

- 1 単元名 おはなしをよもう
「やまこえ のこえ かわこえて」 こいでやすこ 作 福音館書店

2 単元について

本学級の児童は2年生が3名（知的1名 [A児]、自閉・情緒2名 [B・C児]）である。昨年新設されたが、同学年の児童のみなので常に行動を共にすることが多く、友達関係は良好だ。入学時は個人で行動することが多かったが徐々に友達を意識するようになり、自分から声をかける場面も増え、一緒に活動する喜びを見出している。実態差はあるものの、A児は皆で一緒に学習したいという想いが強いので、どの教科も同室で一緒に学習しており、教科や課題によって衝立を使って分かれて学習をしている。

子どもたちは入学当初より読み聞かせに親しんでおり、絵本が好きである。1年時より絵本を使って繰り返しひらがなの学習に取り組んだり、「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」では劇遊びを行ったりしてきた。劇遊びでは人数の関係上配役が難しいこともあり、役を減らすか、みんなで主人公を演じることが多かった。読むことがおぼつかなくても、教師と一緒に繰り返し音読をすることで、耳で聞いたせりふを覚え、どの子も楽しみながらせりふを言う姿が見られた。動作については、言葉を確認しながら一緒に動きを考えても教師の真似をすることが多く、自分で考えて動くことには課題が残る。活動自体は意欲的に行うが、「どんな気持ちだろう。」と聞くと答えられず、友達の言ったことを真似して言うことが多く見られる。

そこで本単元では、劇遊びを通して、登場人物の気持ちを想像する力を身に付けさせたいと考え、絵本「やまこえ のこえ かわこえて」を取り上げ、主人公の「きっこ」の気持ちを想像する学習を行う。これは、特別支援学校学習指導要領、2段階、3段階の内容C「読むこと」（ア）の指導事項に示された「教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。」「絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。」また、小学校指導要領、第1学年及び第2学年の内容のC「読むこと」（エ）に示された精査・解釈の指導事項にも関わる学習である。

本単元では、絵本「やまこえ のこえ かわこえて」の劇遊びを通して、主人公のきつねのきっこの気持ちを想像することをねらいとする。登場人物の気持ちを想像する手立てとして、登場人物になりきれるように、お面を活用したい。また、劇遊びで友達や教師とのやり取りを深めていく中で、気持ちについて想像を膨らませ言葉にするよさに気付かせたい。やり取りの中でのつぶやきを注意深く聞き、児童が自分の言葉で表現できているときには称賛することで、自分の考えに自信をもち伝えるよさを実感できるようにしていきたい。

3 単元の目標

- 劇遊びを通して、楽しみながらせりふを言うことができる。 【知識及び技能】
- 登場人物になりきって動作化することで、気持ちを想像することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 劇遊びを楽しみながら、自分の思いをもとうとしたり、友達に伝えようとしたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 個別の目標

児童名	個別の目標		
	知	思	主
A 児	② 友達の真似をしながら、せりふをいうことができる。	③ 動作化し、登場人物の気持ちを想像し、教師とのやり取りを通して理由を含めて言うことができる。	③ 積極的に動作化をし、登場人物の気持ちを想像したり、友達に伝えようとしていたりしている。
B 児	③ 自分の役のせりふを本文から探し、場面にあった読み方をしている。	② 繰り返し動作化し、登場人物になりきること、気持ちを言葉で表すことができる。	② 楽しみながら動作化をし、登場人物の気持ちを想像しようとしている。
C 児	③ 自分の役のせりふを本文から探し、場面にあった読み方をしている。	② 動作化し、教師とのやり取りを通して、登場人物の気持ちを言葉で表すことができる。	② 友達と楽しみながら動作化をし、登場人物の気持ちを想像しようとしている。

5 《単元の評価》

目標	○劇遊びを通して、楽しみながらせりふを言っている。 【知識・技能】	○劇遊びを通して、登場人物の気持ちを想像している。 【思考・判断・表現】	○劇遊びを楽しみながら、自分の思いをもとめようとしていたり、友達に伝えようとしていたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
第一段階	① 教師や友達の動きを見て真似をしている。	① 教師や友達の動きを見て真似をし、登場人物の気持ちを表情で表している。	① 教師や友達の動きを真似して楽しもうとしている。
第二段階	② せりふを覚えて言っている。	② 動作化をし、教師とのやり取りを通して、登場人物の気持ちを言葉で表している。	② 楽しみながら動作化をし、登場人物の気持ちを想像しようとしている。
第三段階	③ 自分の役のせりふを本文から探し、場面にあった読み方をしている。	③ 動作化をし、登場人物の気持ちを想像して、自分の言葉で表現している。	③ 積極的に動作化をし、登場人物の気持ちを想像しようとしていたり、友達に伝えようとしていたりしている。

6 研究の視点

「児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～」

【視点1】児童に興味関心をもたせる工夫

○絵本の活用 「やまこえ のこえ かわこえて」 こいでやすこ作 福音館書店

絵本が好きな児童のために、図書館の本を利用して一人一冊絵本を用意し、自由に手に取って読んだり確認したりできる環境を整え、興味関心が継続できるようにする。今回の教材を選んだのは、繰り返しのあるリズムカルなお話であることと、子どもたちに買い物や暗い夜道を歩いた実体験があるからである。そのため、音読を楽しみながら、

登場人物の気持ちを自分の実体験と結び付けて想像しやすいと考えた。1年時に「おおきなかぶ」や「おむすびころりん」の学習で、繰り返しのあるお話に親しんだり、リズムカルに音読する楽しさを味わったりしてきた。その経験を踏まえ、繰り返しの部分をリズムカルに読んだり、微妙に表現が変化していくことに気付いたりして、そのおもしろさを声に出して楽しませたい。

また、物語の冒頭できっこがおまじないを唱えている部分では、自分たちもげんきキャンプで夜の散歩を経験したため、ドキドキしたり怖かったりした気持ちを想起しやすく、主人公「きっこ」に感情移入しやすいのではないかと考える。一鉢で育てている野菜や、遠足のおやつなど近くのお店に買い物に行った経験もあるので、より「きっこ」の無事に買えて嬉しい気持ちを想像できるであろう。さらに絵をじっくり見ると、最初から「ちっちゃなきつね」がきっこたちについて来ていることもわかる。そのような小さな気付きが面白い絵本のよさをたくさん感じさせたい。普段よりは少し長めの話に挑戦することになるので、「きっこ」が買い物に行くきっかけとなったいなりずし作りを実際に取り入れることを知らせ、興味が継続するように活動していきたい。

○劇遊びの工夫

物語を読む学習では楽しみながら動作化をする子どもたちなので、劇遊びをすることで楽しみながらお話の世界に浸ることができ、登場人物の気持ちを想像しやすくなると考える。単元の最後に、友達や教師に劇の発表を見せることを設定し、常に目的意識をもって活動できるようにしたい。山からおとうふやさんまでの地図をみんなで作り、今どこにいるのかを確認したり、山や野、川を作って登場人物のように実際に越えていったりすることで、文章と動作を結び付けて、読み取る力を更に深めたい。

また、主人公のお面を用意し、自分で目と口の形を動かせるように工夫することで、うまく言葉で表現できなくても、表情で表すことで自分の考えを表現できるようにしたい。そして、既習の掲示物に場面ごとのきっこの表情を貼り付けることで、気持ちの変化にも気付くであろう。繰り返し動作化をしたりやり取りをしたりすることで、初めはわかりづらかったとしてもだんだんと気持ちの読み取りが深まると考える。これを繰り返して、読み取る力をつけていきたい。

7 指導計画（全14時間）

時	学習内容	目標
1	絵本を読み、登場人物や大体の内容を読み取る。	○登場人物がわかり、教師の真似をしてせりふを言う。
2	劇遊びを通して、「きっこ」の気持ちを想像する。	○おまじないを唱えるときの気持ちを想像する。
3		○おつきさまがついてきてくれてどんな気持ちになるかを想像する。
4		○ふくろうがついてきてくれてどんな気持ちになるかを想像する。
5		○いたちの兄弟がついてきてくれてどんな気持ちになるかを想像する。
6 (本時)		○おとうふやさんで買い物をし、どんな気持ちになるかを想像する。
7		○あぶらあげを全部渡すように言われた時に、どんな気持ちになるかを想像する。
8		○あぶらあげを半分渡すように言われた時に、どんな気持ちになるかを想像する。
9		○あぶらあげを10まい渡すように言われた時に、どんな気持ちになるかを想像する。

1 0		○やっと家に着いたときに、どんな気持ちになるかを想像する。
1 1		○皆の為に作ったり、喜んでもらったりすると、どんな気持ちになるかを想像する。 ○だれかが、どこからついてきているのか絵本から探す。
1 2	「きっこ」へお手紙を書く	○物語を振り返り、「きっこ」へ手紙を書く。
1 3	劇遊び（練習）	○登場人物の気持ちを想像しながら、せりふを言ったり動作化をしたりすることができる。
1 4	劇遊び（発表）	

図工：小道具作り

生活科：いなりずし作り

8 本時の指導

(1) 本時のねらい

○教師や友達と一緒に劇遊びをすることを通して、「きっこ」の気持ちを考え理由を含めて言うことができる。(A児) **【思考・判断・表現】**

○教師や友達と一緒に劇遊びをすることを通して、「きっこ」の気持ちを想像して言葉に表すことができる。(B・C児) **【思考・判断・表現】**

(2) 展開 (6 / 14)

時配	学習内容と活動 (・予想される児童の反応)	○指導や◎支援の手立て (◆評価)	資料等
3	1 読み聞かせを聞く。	○前時までの学習を振り返り、本時のページを確認し、読み聞かせをする。(T1) ◎集中して聞くように、声かけをする。(T2)	掲示物 絵本
2	2 本時のめあてを確認する。 きっこのきもちを かんがえよう		ワークシート お面
5	3 おとうふやさんとのやり取りを確認する。 ・あぶらあげをかったよ。 ・きのことくりをあげたよ。 ・かわざかなもあげたよ。	○絵本で買い物をしている場面を見ながら、買ったものとお代を確認し、必要なものを準備するように声をかける。(T1) ◎A児は絵から読み取るように声をかける。(T1) ◎B児とC児には本文から読み取れるように声をかけ、ワークシートに書くよう促す。(T2)	小道具 ・あぶらあげ ・きのこ ・くりなど
5	4 買い物をした「きっこ」の表情を考える。 ・うれしい ・にこにこ	○自分のお面の目と口を動かして表情を作ることを伝え、買い物をして喜んでいることを確認する。(T1) ◎迷っている児童には、どんな気持ちか絵で確認をして、一緒に目と口を動かすようにする。(T1、T2)	お面

15	5	本時の内容の劇遊びをする。 ・ 買い物をする場面。	○地の文は教師が読むようにし、せりふや動きは児童が考えて動くように促す。(T1) ○役割を交代しながら、全員が「きっこ」の役をすることを伝える。(T1) ◎うまく配役できるように声をかけ、足りない役は教師が行う。(T1) ◎買い物をする「きっこ」たちの気持ちを想像することに集中させるため、おとうふやさんは教師が行う。(T2) ◎「きっこ」役の児童が買い物を無事に済ませた時に称賛することで、できた喜びを感じられるようにし、きっこの気持ちを想像しやすくする。(T1・T2)	お面
5	6	「きっこ」の気持ちを考え、ワークシートに書く。 ・ うれしい ・ かえてよかった	○ワークシートの吹き出しに、「きっこ」の気持ちを書くように伝える(T1)。 ◎A 児には教師とのやり取りを通して気持ちとその理由を聞き取り、一緒に文字を確認したり点線を書いたりして、安心して書けるようにする。(T1) ◎B 児と C 児には、お面の表情を確認したり、劇遊びの場面を想起させたりしながら、気持ちを言葉にできるようにする。(T2) ○早く終わった児童は、他の登場人物の気持ちを考えて吹き出しに書くように促す。(T2) ◆「きっこ」の気持ちを自分の言葉で表すことができたか。 【思考・判断・表現】	
5	7	考えたことを発表する。	○自分の考えた気持ちを一人ずつ発表するように促す。(T1) ◎発表することに自信がない児童には、寄り添い一緒に発表する。(T1) ◎発表している友達を見て、集中して聞くよう声をかける。(T2)	テレビ 書画カメラ
5	8	本時までの劇遊びをする。 ・ 物語の最初から劇遊びをする。	○うまく配役できるように声を掛け、足りない役は教師が行う。(T1) ○役になりきり気持ちを込めて言えるように助言する。(T1) ○次時の場面が楽しみになるように、声をかけながらまとめる。(T1)	